

(2) 各分野の目標及び内容**ア 地理的分野****(ア) 目標**

(1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。

*地理的分野の基本的な目標を示している

*我が国の国土認識と併せて、世界の諸地域に関する地理的認識を養うことを学習の両輪とすることを示している

「日本や世界の地理的事象に対する関心を高め」

- ・我が国の国土認識だけでなく世界の諸地域の地理的認識を養うことを重視することから、日本や世界の様々な地理的事象に生徒自らが関心をもって学習に取り組むことができるようにするとともに、学習を通してさらに関心が喚起されるよう指導を工夫すること

「広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ」

- ・広い視野：
 - ・世界的視野からとらえるということ
 - ・多面的・多角的に考察するということ
- ・考察し理解させ：
 - ・「考察する」という学習の過程を経て「理解させる」
 - ・追究する学習を重視するとともに、確かな理解に至る学習を展開すること
- ・我が国の国土（の地域的特色）：視野の狭い学習により単に地理的知識を詰め込むのではなく世界的視野から多面的・多角的に追究する学習を通してとらえさせる必要がある
- ・世界の諸地域の地域的特色：学習で取り上げる地域や国それぞれが、世界的視野から見てどのような地域的特色をもっているかを考えさせることが大切である

「地理的な見方や考え方の基礎を培い」

- ・地理的な見方：日本や世界にみられる諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりで地理的事象として見いだすこと
- ・(地理的な) 考え方：それらの事象を地域という枠組みの中で考察すること
 - *目標の(2), (3)を踏まえて地理的な見方や考え方を整理すると
 - ①が地理的な見方の基本
 - ②が地理的な考え方の基本
 - ③から⑤はその地理的な考え方を構成する主要な柱
 - ① どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、地理的事象として見いだすことまた、そうした地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性がみられるのか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること
 - ② そうした地理的事象がなぜそこでそのようにみられるのか、また、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか、地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること
 - ③ そうした地理的事象は、そこでしかみられないのか、他の地域にもみられるのか、諸地域を比較し関連付けて、地域的特色を一般的共通性と地方的特殊性の視点から追究し、とらえること
 - ④ そうした地理的事象がみられるところは、どのようなより大きな地域に属し含まれているのか、逆にどのようなより小さな地域から構成されているのか、大小様々な地域が部分と全体とを構成する関係で重層的になっていることを踏まえて地域的特色をとらえ、考えること
 - ⑤ そのような地理的事象はその地域でいつごろからみられたのか、これから先もみられるのか、地域の変容をとらえ、地域の課題や将来像について考えること

*地理的な見方や考え方は、地理的分野の学習の全般を通じて培うものであり、系統性に留意して計画的に指導することが必要である

「我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う」

*地理的分野が目指す総括的な目標

- ・ **国土**：山地、平野、海岸などの自然物からなる土地それ自体だけを指すのではなく、そこに居住し生活する人々及び社会の実態や、人間の土地への対応の仕方を含めたもの

*中学校では我が国の国土の認識と併せて世界の諸地域に関する地理的認識について、それぞれ広い視野から養うこととしている。この目標の(1)の実現を目指すことが、改正教育基本法等の趣旨に沿うことになるとともに、社会科の究極の目標である「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことにも結び付く

(2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかわりごととらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる。

*地理的な見方や考え方の基礎を培い、地域的特色や地域の課題をとらえさせるという地理的分野のねらいを具体的に示している

「日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかわりごととらえ」

*目標の(1)のところで述べた地理的な見方や考え方の①に当たる部分

*地理的な見方について示したもの

- ・ 生徒に地理的な見方を身に付けさせることを一層重視すること
「とらえる」：例えば地域的特色を「調べ追究して、明らかにする」として「理解すること」の二つの意味内容を含んでいる

「それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し」

*目標の(1)で述べた地理的な見方や考え方の②に当たる部分

*地理的な考え方の基本

- ・ **地域の規模に応じて**：地理学習においては、どのような規模の地域を対象にしているかといった点に留意して、取り上げる地域の規模に応じた地理的事象の取扱いを工夫することが大切である
- ・ **環境条件**：自然的条件(自然環境)とそれ以外の社会的条件(社会環境)の二つが含まれている
 - *自然的条件(自然環境)に重きを置いてこの用語を使用する傾向があるので、この点に留意して、多面的・多角的に考察するよう努める必要がある

「地域的特色や地域の課題をとらえさせる」

*今回の改訂における地理学習のねらいを具体的に示している

- ・ **地域的特色**：大きくみると、地域の環境条件及び他地域との結び付きと、そこに居住してより豊かな生活を実現するために努力している人々の営みとのかわりごとの中で生み出されているもの
 - *「環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し」と示したのは、それを象徴化したもの
 - *他地域との結び付きや人々の営みも社会的条件と考えられ、いずれも地域的特色を生み出す上で大きな役割を果たしている。大きくみれば、地域の環境条件、他地域との結び付き、人々の営みが相互に影響を及ぼしながら地域的特色が形成され、変容している
- ・ **地域の課題**：そうした地域の変容や地域的特色をとらえる学習によって見いだされるものであり、さらに地域の将来像や地域の課題の解決策などについて考えたり、意見交換したりすることができるよう学習することが望まれる

(3) 大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。

* 地域的特色の特質、性格についての考え方を地理的な見方や考え方を構成する概念と関連付けて示したもの

「大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し」

* 目標の(1)で述べた地理的な見方や考え方の④に当たる部分

* 地域的特色を追究する際の地域の枠組みについて示したもの

・ 地域概念：

・ 地球表面は、

例えば行政区域に着目すると、国家、都道府県、市町村などの大小様々な地域

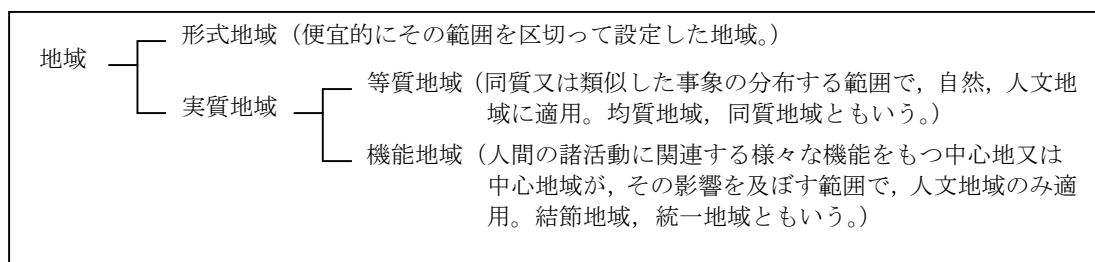
例えば水田単作地域、酪農地域のように同じような特色をもった等質地域と、通勤圏、商圏のようにある地域を中心にその影響の及ぶ範囲をまとめた機能地域

大小様々なまとまりある地域に分けることもできる。さらに、指標の取り方によっては、

台地と低地、あるいは気候帯や植生帯といった自然地域と、

農業地域や工業地域といった人文地域

というように、共通の特色をもった大小様々な地域に分けることができる



・ また、大小様々な地域は、

たくさんの字とよばれる小地域が集まって市町村規模の地域をつくり

市町村が集まって都道府県といった規模の地域をつくる

さらに、たくさんの都道府県が集まって日本という国家規模の地域をつくり

たくさんの国々が州といった規模の地域を構成する

というように、重層的になっている

・ したがって、各地域については、そうした枠組み、そして規模を踏まえて適切に取り扱うよう工夫することが大切である

「日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し」:

* 地理的な考察の方法の基本を示したもの

* 各地域の特色は、他地域と比較したり関連付けたりすることによってより一層明らかとなってくる。しかし、一方で比較の仕方や関連付け方によっては、ある面だけを強調したりして誤解を助長する恐れもある

・ 諸地域を比較し関連付ける際には、地域の規模に対応させたり、より視野を広げてみたり、過去と現在といった時間的経過などを考慮して、適切かつ多面的・多角的に取り扱うよう工夫する必要がある

「それらの地域は相互に関係し合っていること (…を理解させる)」

* 二つ以上の地域間の関係性について示したもの

・ 地域はそれぞれ独自性をもっているが、その地域だけでは成り立っていない。このため、地域は他地域との関係をもちながら成り立っているが、その関係には、相互依存や協力、競争などの様々な関係がある

・ 地域間の諸関係を多面的・多角的にとらえることができるよう、学習指導を工夫することが大切である

「各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること（…を理解させる）」

＊地域間を比較し関連付ける学習を通して明らかとなる地域的特色について示したもの

- ・ **地域的特色**：「地方的特殊性と一般的共通性」から構成
 - ・ **地方的特殊性**：各地域のもつ独特の性質
 - ・ **一般的共通性**：他地域にも共通にみられる性質
- ・ この二つの性質は相互に関係し合っていることから、各地域の学習においては、この二つの性質を関連付けて扱うことが大切である

＊「特色」と示しているからといって地方的特殊性のみを対象にしているわけではない点に十分留意する必要がある

「それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる」

- ・ それら：「地域は相互に関係し合っていること」

「各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること」の二つ

- ・ **諸条件の変化など**：

- ・ **諸条件**：自然及び社会的条件

＊科学技術の進歩など人間の諸活動が生み出す諸条件も含んでいる

- ・ **など**：地域の変容が、「諸条件の変化」といった外部的な条件だけでなく、内部的なものでも変化することがあり得ることを意味している

＊地域的特色や地域間の諸関係は、国際化、情報化の進展などに伴って、ますます深化し、複雑になっている。しかし、だからといって地域の変化は一様ではなく、激しく変化している地域もあれば、あまり変化していない地域もみられることに留意して、画一的にとらえることのないよう工夫する必要がある

＊地誌的な学習の目的は、取り上げた様々な地域の地域的特色を多面的・多角的に追究し、とらえることである。そうした地誌的な学習に当たっては、前述した地域の概念に基づいて地域をとらえることがより一層重要となってくることに留意して、指導に当たることが大切である

(4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。

＊地理的分野の学習を通して生徒が身に付けるべき望ましい能力と態度を示したもの

＊中央教育審議会の答申の学習指導要領改訂の基本的な考え方の中で、思考力・判断力・表現力等の育成が示され、そのために観察・実験やレポートの作成、論述といった学習活動を充実させること、そして、そのような学習活動を基盤として言語に関する能力の育成に取り組むことの重要性が示された。この目標の(4)の実現を図ることは、そうした今回の学習指導要領改訂の基本的な考え方と軌を一にしている

「地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め」

＊地理的事象に対する関心などの育成を重視する観点から示したもの

- ・ **地域調査**：課題を設けて行う学習や作業的、体験的な学習など、生徒の主体的な学習を促す学習の代表例として示したもの

＊例えば、景観の観察といった比較的实施に負担が少なく、視覚的にとらえる活動を取り入れるなど、現代の日本や世界の地理的事象を取り扱う地理学習の特質を生かして、作業や体験を伴う学習や課題を設定し追究する学習などを工夫し、生徒の主体的な学習を促すことが必要

- ・ 地理学習を通して日本や世界の地理的認識を深めていこうとする態度をはぐくむことが大切である

「様々な資料を適切に選択、活用」

＊様々な資料を活用する技能や表現力の育成を重視する観点から示したもの

- ・ 「様々な資料を適切に選択、活用」することは、情報技術革新や情報化の進展により地理情報(地域に関する情報)が増大し多様化する現代及び近未来において、特に大切である

- * 情報技術革新や情報化の進展により、地理情報も多様な情報手段によって多種多様な資料を容易に得ることができるようになってきているが、それらの中には、地理的分野の学習に結び付かない高度な情報や詳細過ぎる情報なども少なくない
- * 情報量には地域的な偏りがあり、入手しようとしてもなかなか適切な資料が入手できない地域もみられる
- ・ 地理的分野の学習で活用できる資料としては、地図、統計、新聞、写真、紀行文など種々あるが、その中でも最も重要な役割を果たしているのが地図である
 - * 現代のように地域間の交流の盛んな時代においては、社会的事象を位置や距離関係を考慮して地図上でとらえることが効果的であり、大切なこととなっている
 - * 地域の変容が激しくなっている現代は、新旧の地図を比較し関連付ける学習が、地域の変容の軌跡をとらえ、地域の課題や将来像などについて考える上でも大切な方法になっている
 - * 読図力、作図力などの地理的技能を地理学習の全般にわたってしっかり身に付けさせるよう工夫することが大切である

「地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断する（…能力や態度を育てる）」

- * 社会的事象に対する思考力・判断力の育成を重視する観点から示したもの
 - ・ 「多面的・多角的に考察し：地理学習で取り上げる地理的事象そのものが様々な面をもっており、それを地理学習では様々な角度から追究している。そして、それが「公正に判断する能力や態度」を培う基本となっている
 - * 多面性をもつ地理的事象は、それをとらえる観点によって大きく変化することから、ともすると一面的な考察、判断に陥りやすい。それゆえ、地理的事象を考察し、判断、理解するに当たっては、「公正」さに留意することが大切である
 - * 資料を適切に収集、選択、処理、活用し、資料に基づいて考察する態度を身に付けさせることが特に大切である

「適切に表現する能力や態度を育てる」

- * 表現力の育成を重視する観点から、前回改訂時に付加された部分
 - ・ 適切に：
 - ・ 一面的にならないよう公正さに留意すること
 - ・ 表現といっても多様であり、各場面で求められている表現活動に的確に対応することを意味している
 - * 地理的事象は地図化することによって地理的事象が意味することなどを明確にとらえることができることから、特に地図に関する表現力の育成に留意して学習指導を工夫することが大切である
 - ・ 言語力育成の観点から、観察や調査等の結果を論述したり、意見交換したりするなどの言語活動を充実させることに特に留意することが必要である

地理的分野全体に関する内容の取扱い

- (1) 内容の(1)及び(2)については、この順序で取り扱うものとする。
- (2) 内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
 - ア 地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分に活用すること。
 - また、地域に関する情報の収集、処理に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用するなどの工夫をすること。
 - イ 学習で取り上げる地域や国については、各項目間の調整を図り、一部の地域に偏ることのないようにすること。
 - ウ 地域の特色や変化をとらえるに当たっては、歴史的分野との連携を踏まえ、歴史的背景に留意して地域的特色を追究するよう工夫するとともに、公民的分野との関連にも配慮すること。
 - エ 地域的特色を追究する過程で生物や地学的な事象などを取り上げる際には、地域的特色をとらえる上で必要な範囲にとどめること。

(イ) 内容

(1) 世界の様々な地域

ア 世界の地域構成

地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域区分などを取り上げ、世界の地域構成を大観させる。

(内容の取扱い)

ア アについては、学習全体を通して、大まかに世界地図を描けるようにすること。

主な学習内容

「緯度と経度」

- ・地球上の位置を緯度・経度を用いて表せるようにする
- ・赤道・本初子午線、北半球・南半球の意味を知ることや、日本の対蹠点（地球上の正反対の地点）を探すなど、地球の大まかなとらえ方をつかませる

「大陸と海洋の分布」

- ・地球規模の位置関係をつかむ基礎として、六大陸と三大洋の大まかな形状と位置関係をとらえさせ、各種の地球儀や世界全図、大陸別の地勢図なども活用しながら特色をつかませる

「主な国々の名称と位置」

- ・世界の4分の1から3分の1程度の国々の名称と位置を身に付けることが一応の目安
- ・様々な観点から世界をとらえる目安となる国
 - 例) 面積の広い国, 人口の多い国, 日本とかかわりの深い国, ニュースで頻繁に取り上げられる国
 - * 小学校社会科の学習や日常生活の中で習得した世界の国々に関する知識を十分に生かし, 整理して拡充するようにする
 - * 「大まかに世界地図を描けるようにすること」を踏まえ, 適度に世界に広がって分布するよう配慮する
 - * 日常生活で情報を得やすい国には地域的に偏りがあることに留意し, 世界各地の人々の生活と環境や世界の諸地域の学習, 歴史的分野の学習で扱う国との関連を図りつつ, 扱う国が一部の地域に偏ることがないようにする
- * 生徒一人一人の特性等に十分に配慮して授業が展開できるよう, 指導内容及び指導方法を工夫すること
 - 例) ・国名を単に覚えるだけの学習にならないよう, 索引を使って国の位置を探すなど地図帳を活用した学習活動を行う
 - ・人物名, 山, 川などの地形名などに由来する国名に着目させる
- * 内容の(1)の「ウ 世界の諸地域」などにおいても主な国々の名称と位置を適宜取り上げ, その知識の定着を図るよう指導を工夫する

「地域区分」

- ・州やそれらを幾つかに区分した地域など, 世界を様々な地域に区分けしてとらえられることを理解させる
 - * 地域区分には様々な分け方があるが, 世界を大観させるというねらいや日常生活で活用しやすいという観点から, 海峡や運河, 山脈で区分されたアジア, ヨーロッパなどの州や, それを幾つかに区分した地域などを取り上げる
 - * 州を幾つかに区分した地域とは, アジア州を東アジア, 東南アジアなどに区分けしてとらえるといった程度の区分
 - * アジアとヨーロッパにまたがるロシア連邦などを例にして二つの州にまたがる国があることに気付かせたり, 中東地域, ラテンアメリカなど, ニュースなどで目にする地域名を手掛かりにしたりして, 様々な地域区分があることをとらえさせる

- 小3,4 社会(2)イ →
 - ・地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域とのかかわり
- 小3,4 社会(6)エ →
 - ・人々の生活や産業と国内の他地域や外国とのかかわり
- 小5 社会(2)ア →
 - ・様々な食料生産が国民の食生活を支えていること, 食料の中には外国から輸入しているものがあること
- 小5 社会(3)ウ →
 - ・工業生産に従事している人々の工夫や努力, 工業生産を支える貿易や運輸などの働き
- 小6 社会(3)ア →
 - ・我が国と経済や文化などの面をつながり深い国の人々の生活の様子

- 小5社会(1)ア →
 ・世界の主な大陸と海洋, 主な国の名称と位置, 我が国の位置と領土
- 小6社会(3)ア →
 ・我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子

◇地球儀や世界地図を活用し

「地球儀」: 地球上の位置関係や陸地面積, 形状を正しくとらえる学習

*生徒は, 日本を中心に描かれたメルカトル図法やミラー図法などによる世界地図に影響された世界観をもっていることが多い

例) ・地球儀を使って陸半球と水半球を図に描く

例) ・地球儀の日本の位置に十字を貼ったテープをあて, 東西方向へ進むとどこの国に到達するかを調べ世界地図と比較する

・地球儀と世界地図それぞれにおけるグリーンランドの大きさを比較する

「世界地図」: 面積の正しい地図や中心からの距離と方位の正しい地図など目的に応じた様々な地図があることを取り上げ, それらの特色に留意した読み取りを中心とする

*地図帳の適切な活用方法を身に付けさせる

*教室に地勢や国を表す地球儀を置いたり, 世界地図を教室に掲示したりして折にふれて活用するなど, 日常的に地球儀や世界地図に親しませるよう配慮することが望まれる

◎世界の地域構成を大観させる

・地球規模での位置関係をとらえるための基礎的な知識や技能を身に付けさせる

・地球表面の姿や世界の地域構成を大まかにとらえ, それらを世界地図で描けるようにする

・赤道や本初子午線など目安となる緯線, 経線を基準として, 大陸の形状や海洋の位置関係が大まかに示されている程度の世界の略地図を描けるようにする

*複雑な海岸線や国境線を描く必要はない

*地球儀でとらえた地球の姿との違いに留意しつつ, 世界を大きくとらえる

*この後の学習の中で, 学習した成果を整理する際にも世界地図を活用する

→高地理A(1)ア

・地球儀や地図からとらえる現代世界

→高地理B(1)ア

・地理情報と地図

学習の手立ての例

- ・果物をクシ切り, 輪切りにするなどして, 緯度・経度の具体的なイメージを持つ
- ・GPS(全地球測位システム)を用いて, 自宅や学校の緯度・経度を測定する
- ・世界の主な都市の緯度・経度を地図帳で調べ, 位置を確認する
- ・地球儀を活用して, 日本から特定の国への方位と距離を調べる
- ・地図と地球儀を用いて, 国の面積や方位を比較することで, 地図や地球儀の特色を捉える
- ・特定の国の位置を大陸や海洋の名称を用いて表現する
- ★世界各国の国旗について調べ, 共通点のある国を表にまとめる
- ・統計資料等を使い, 人口や面積等で上位の国を地図や地球儀を用いて探す
- ・新聞から地域区分の表記を抜き出し, 地図で位置を確認する
- ・自分が知っている国, 小学校で取り上げた国, サッカーなどの国際大会への参加国等が, どの地域に属するかを地図で読み取る
- ★白地図を利用し, 人口, 面積, 気候などを統計資料と照らし合わせて独自の地図を作成する
- ★自分の作成した世界の略地図を活用し, 統計資料等を使って, 分布図を作成する

(1) 世界の様々な地域

イ 世界各地の人々の生活と環境

世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。

(内容の取扱い)

イ イについては、世界各地の人々の生活の様子を考察するに当たって、衣食住の特色や、生活と宗教とのかかわりなどに着目させるようにすること。その際、世界の主な宗教の分布について理解させるようにすること。

主な学習内容

小6 社会 (3) →

・世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする

ア 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活

小5 社会 (1) イ →

・国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活

中歴史 (2) ア →

・世界の古代文明や宗教のおこり…

＊第1学年に位置付けるにあたり、生徒の発達の段階に配慮するとともに、人々の生活に関する学習を重視する

- 例) ・生徒が小学校で習得した世界に関する知識や、我が国とつながりが深い国から一か国を選択して調べ話し合うなどした小学校第6学年での作業的、体験的な学習活動の経験を活用する
- ・視聴覚資料など各種の資料を活用し、世界地理の学習への興味や関心を高める内容になるよう配慮する
 - ・世界各地の人々の生活と環境とのかかわりや、人々が様々な条件のもとで多様な生活を営んでいることに気付き、異なる文化を尊重する態度を身に付けさせることに留意する

「世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ」

＊世界全体を学習の対象としており、取り上げる指導内容については人々の生活が中心となっている

- ・人々の生活の様子とその変容：同じ地域の過去と現在の生活を比較してその変化に着目し、人々の生活が可変的なものであることに気付かせることを意味している。

＊各地域の事例の取り上げ方

- ・一部の地域に偏ることのないよう配慮する
- ・自然的条件を取り上げるに当たっては、人々の生活に関する学習を中心とし、それに関連する範囲で扱うとともに、自然的条件の違いのみに着目した自然環境決定論に陥らないように留意する
- ・社会的条件としては、地域の歴史的背景や住民の民族構成などに配慮しながら、伝統的な生活様式が他の文化との接触や新しい技術の導入、経済活動の活発化によって変容することなどを取り上げることが考えられる

◇資料の活用

例) ・暑い地域と寒い地域、山岳地域と島嶼^{とうしょ}地域など、特色のある自然環境とそれに関係する衣食住を事例として取り上げ、写真や映像資料などを用いて人々の生活の工夫や、伝統的生活と現代の変化をとらえる

- ・同じような自然的条件の地域を幾つか取り上げ、共通点や地域によって異なる点を探す

＊気候や地形、民族などの分布を表した様々な主題図を活用するとともに、取り上げた事例を主題図上に位置付け、様々な事例を比較するなどの作業的な活動が取り入れられることが望まれる

＊生活と宗教とのかかわり

- ・世界には様々な宗教があり宗教とのかかわりの深い生活が営まれていること
- ・同じ地域でも宗教その他の社会的条件による生活の違いがみられることなどに着目させる

＊その際、世界の主な宗教の分布について理解させる (内容の取扱い)

- ・世界的に広がる宗教の分布について分布図を用いて大まかに把握させ、歴史的分野の学習とも関連付けて理解させる

→高地理A (1) イ
・世界の生活・文化の多様性

→高地理B (2) エ
・生活文化、民族・宗教

→高現代社会 (2) オ
・国際社会の動向と日本の果たすべき役割

→高倫理 (3) イ
・現代の諸課題と倫理

*分布図を扱う際には、分布の境界は必ずしも明確に分けられないものであることなどに触れ、分布図を読み取る上での留意点を示す

*人々の生活を中心とした文化の学習

・文化を固定的なものにとらえさせたり、特定の民族に対する固定観念をもたせたりする学習とならないように配慮する

*一つの事例が生活全体あるいは地域全体の特徴としてとらえる過度な一般化を招きやすい

・特に地域の人々の生活はそれぞれの地域の地理的諸条件のもとに成り立っているということ

・他地域の人々の生活を理解するのに、自分たちの生活を絶対視してとらえてはいけないということ

に留意して扱い、多様な文化を尊重する態度を身に付けさせる

◎世界各地の人々の生活の様子を、衣食住や宗教とのかかわりを中心に、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる

学習の手立ての例

- ・白地図を用いて、気候や宗教、主食等が共通している国を色分けして、分布の様子を表現する
- ・世界各地の伝統衣装や、食事、住居の写真等から、人々の生活の様子を予想する
- ・伝統の衣食住から、その地域の気候や宗教、地理的特徴を予想し、資料を用いて検証する
- ・先進国と発展途上国の生活の様子を比較し、その違いを考察する
- ・世界各地における伝統的なものと変化してきているものを調べ、表にまとめて考察する

★日本の伝統的な衣食住の特色を、自然的条件と社会的条件から説明する

🏠世界の様々な気候帯の都市と自分たちが住んでいる地域の雨温図を比較して、世界の各都市の気候の特色を、文章で表現する

(1) 世界の様々な地域

ウ 世界の諸地域

世界の諸地域について、以下の(ア)から(カ)の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させる。

(ア) アジア (イ) ヨーロッパ (ウ) アフリカ (エ) 北アメリカ (オ) 南アメリカ (カ) オセアニア

(内容の取扱い)

ウ ウについては、州ごとに様々な面から地域的特色を大観させ、その上で主題を設けて地域的特色を理解させるようにすること。その際、主題については、州の地域的特色が明確となり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的であるという観点から設定すること。また、州ごとに異なるものとなるようにすること。

主な学習内容

「州ごとに様々な面から地域的特色を大観させ、その上で主題を設けて地域的特色を理解させる」

- ・まず、基礎的・基本的な知識を習得する学習を行い、
- ・それらの知識を活用して中学校第1学年の生徒の生活と結び付く地理的事象を取り上げ、
- ・生徒の関心と結び付きやすい主題を設定し追究する中で、
- ・地域的特色が明らかになるように学習を展開していくことが大切

(ア)から(カ)の各州：

- ・この地域区分を基本とする
 - *各州の地域的特色を明らかにする必要からそれぞれの州を幾つかに区分したり、取り上げる地理的事象の特色を的確に把握する観点から州を超えた越えた地域を設定したりして、それぞれの地域的特色を理解する学習を展開することも考えられる
 - *ロシア連邦を扱う場合は、設定する主題との関連から、アジア又はヨーロッパのいずれかに位置付けて扱う
 - *州をさらに区分したり州を越えたりした地域を設定することによって、州内の個別の国又は小地域や一部に偏った地域的特色を網羅的に細かく学習するような取り上げ方は避ける
 - *州全域を隈なく学習するのではないことにも留意する

「人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象」

「生活の様子を的確に把握できる」：生徒の生活実感と結び付く学習内容を意図した表現

「人々の生活」：社会生活を営む人間の活動による諸事象を総体的に表す意味で用いており、単に衣食住、生活様式についての諸事象のみを指しているわけではない

*人々の日常生活がイメージできるような具体的事例を開発していくことが望まれる

例) 西アジアから中央アジアに広がる砂漠地域の遊牧民の生活の様子を、生産・流通・消費の視点から取り上げ、地域的特色を明らかにする

生産：ラクダ、羊、山羊を飼育して、乳製品、皮革、肉などを生産している

流通：オアシス農民との交易、都市生活者との交流

消費：遊牧民の生活にも、現代的な生活用品、テレビ、自動車などが入り込んできて、消費生活の都市化が進んできている

これらの生活を移動空間や1年間の時間軸の中において考察すると、地域的特色が具体的に理解できる

*「地理的事象を取り上げる」際には、それぞれの州において広範にみられる特色ある地理的事象を取り上げることが大切

*州ごとに様々な面から地域的特色を大観させ、その上で主題を設けて地域的特色を理解させるようにすること

小6社会(3) →

・世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする

小6社会(3)ア →

・我が国と経済や文化などの面でのつながりが深い国の人々の生活の様子

中地理(1)イ →

・世界各地の人々の生活と環境

→高地理A(1)イ

・世界の生活・文化の多様性

→高地理B(3)ア

・現代世界の地域区分

→高地理B(3)イ

・現代世界の諸地域

「大観」：各州の自然、産業、生活・文化、歴史的背景などについて概観し、その結果として基礎的・基本的な知識を身に付けさせることを意味する。

＊ここで習得された知識が後の学習に活用されるとともに、世界の各州について大観する学習がなされた際には、概略的な世界像が形成できるように学習内容を構成する必要がある

「主題」：取り上げる地理的事象、既習内容、主題の難易度、生徒の生活経験、想定される学習活動、配当授業時数との関係などを勘案して、教師によって設定されるもの

＊各州一つ又は二つの主題に絞って展開することが適切

＊各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設ける

＊我が国の国土の認識を深める上で効果的であるという観点から設定：我が国との比較や関連を図る視点をもって主題を設定

＊州ごとに異なるものとなるようにすること

例) ア ジ ア：人口急増と多様な民族・文化

ヨーロッパ：EUの発展と地域間格差

アフリカ：モノカルチャー経済下の人々の生活

北アメリカ：大規模農業と工業の発展

南アメリカ：森林破壊と環境保全

オセアニア：アジア諸国との結び付き

◇資料の活用

- ・地球儀、世界地図、地図帳、衛星画像などを活用し、地誌的知識や概念の定着を図るとともに、これらを有効に活用し、学習成果を世界地図上や略地図上に表現するなどして、地理的技能を育成する
- ・取り上げる主題や州にかかわる写真、物語、小説なども活用して学習内容及び学習課程を設計し、生徒の生活経験と結び付いた情報を豊かに獲得させていく

◎主題の追究を通してそれぞれの州の地域的特色を理解させる

＊羅列的な知識を身に付けることではない

- ・生徒が世界の地理的事象を身近に感じて、取り上げた世界の諸地域についてイメージを構成することができ、世界の地理的認識を深めていくことが重要

学習の手立ての例

- ・写真や統計等の資料を活用して、各州の自然、産業、生活・文化、歴史的背景等について概観し、理解する
- ・アジアでは我が国の国土の認識を深める観点から、我が国と比較したり関連付けたりでき、州の人々の生活の様子を的確に把握できる主題を設定する
- ・アジアにおける人口急増地域の分布、産業発展と人々の生活の関わり、民族や宗教分布、宗教と生活との関わり、宗教の伝播や人口の地域間移動の推移などを追究し、アジアの人口問題の出現や多様な民族構成、文化形成の背景からアジアの地域的特色を理解する
- ・ヨーロッパにおいてEU加盟国の人々が日常生活で自由に域内の国境を越えて買い物や仕事をしていること、多様な産業が地域で展開している様子、人々の移動、EU内の交通機関による結び付きなどを追究し、EUを構成する国の相互関係や域内の地域間格差の実態から、ヨーロッパの地域的特色を理解する
- ・アフリカ諸国の主要生産品、主要国の経済状況と生産物、貿易の様子、主要生産品とアフリカに暮らす人々の生活との関連、旧宗主国など先進国との結び付きを追究し、アフリカの脆弱な経済基盤とその理由から、アフリカの地域的特色を理解する
- ・アメリカ合衆国、カナダの世界貿易に占める地位、小麦やトウモロコシの生産と貿易、農産物の生産分布、工業都市の分布、農産物・工業製品の流通システム及び大量消費する人々の暮らしなどを追究し、巨大な生産と消費の人々の生活様式から、北アメリカの地域的特色を理解する
- ・南アメリカでは、アマゾンの森林破壊の実態、サトウキビ・小麦の生産地域の変遷、バイオ燃料の普及、焼畑をする人々の暮らし、環境保全に対する農民の意識や政策などを追究し、環境問題やエネルギー問題を地域に即して捉えることから、南アメリカの地域的特色を理解する
- ・オーストラリアやニュージーランドの貿易品の量・額の動向や輸出入の相手国、国内の資源開発や各産業の生産額の推移、アジア諸国からの移民の受け入れなどを追究し、多文化社会が進むオセアニアの人々の生活から、オセアニアの地域的特色を理解する

(1) 世界の様々な地域

エ 世界の様々な地域の調査

世界の諸地域に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、様々な地域又は国の地域的特色をとらえる適切な主題を設けて追究し、世界の地理的認識を深めさせるとともに、世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせる。

(内容の取扱い)

エ エについては、様々な資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したりするなどの作業的な学習活動を取り入れること。また、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させること。

主な学習内容

◇問題解決的な調査活動や探究的な活動

- ・世界の様々な地域又は国の地域的特色をとらえるために、人々の生活の様子の特徴を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、適切な主題を設けて問題解決的な調査活動や探究的な活動を行う
 - ①世界の興味・関心ある地理的事象を見だし、調べる主題を設定する
 - ②主題を多面的・多角的に調査、考察、探究する
 - *その際に地図や統計、文献、インターネット情報等の諸資料を読み取り、有効に活用する
 - ③調査結果を分析・整理してレポートにまとめて発表する
- *こうした活動を展開し、地理的な見方や考え方や地理的技能を身に付けさせることに留意して指導に当たる

◎様々な地域又は国の地域的特色をとらえる

◎世界の地理的認識を深めさせる

- ・世界の地理的諸事象を位置や環境条件、人間の営みなどと関連付けて考察し、世界の人々の生活の多様性を理解させるとともに、なぜそのような生活がそれぞれの地域で営まれているかを考えさせる

◎世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせる

「視点」：世界の人々の伝統的な生活・文化と自然環境や社会環境、歴史的背景、他地域との共通性、異質性や結び付きなどに着目すること

「方法」：調査の対象が直接経験地域ではないことから、各種の地図統計、百科事典、インターネットからの情報、DVDや写真、読み物や紀行文、旅行経験者の体験記など、調べる主題にふさわしい適切な資料を選択し、読み解き、関係付けながら進めること

*調査活動に地図を活用する際には、調べる地理的事象や地域が地図上のどこにあるかを確認するだけでなく、土地利用などを表した主題図などから、地域の地形と土地利用の関係を考察したり、気候図を併用して降水量の分布と土地利用の関係を明らかにしたりして、事象間の関係を読み取る学習活動が重要

*統計資料を活用して、国別の状況を階級区分図やドットマップなどとして表現することは、地域や国の地域的特色を把握する上で有効

*DVDなどの映像や写真、紀行文や体験記などは、世界の様々な地域の様子を実感を持って知ることができる資料となるが、それがそのまま地域や国の地域的特色とはならないので、その点に留意した取り扱いを工夫する

*生徒による資料の収集が容易でない場合は、教師があらかじめ用意した資料を提供することも必要

*様々な地域又は国の地域的特色をとらえる適切な主題

- ・「世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる」ねらいを達成しやすい主題を設定するのが望ましい

中地理(1)イ →
・世界各地の人々の生活と環境
中地理(1)ウ →
・世界の諸地域

→高地理A(1)イ
・世界の生活・文化の多様性
→高地理B(3)イ
・現代世界の諸地域

- 例) ①世界各地の特色ある自然環境とかかわりの深い衣食住などの生活・文化とその変化の様子に関する主題
- ②「イ 世界各地の人々の生活と環境」「ウ 世界の諸地域」で学習した興味・関心ある地理的事象をさらに探究する主題
- ③教科書や地図帳、各種の地図や文献などから発見した、世界の人々の生活に関する興味ある地理的事象を基にした主題
- ④日常生活や新聞、テレビなどで関心を抱いた世界の国々に関する地理的事象を基にした主題
- * 学習した地理的事象の中で、さらに追究してみたい内容や日ごろからの興味・関心を抱いたり、新聞・テレビなどで話題になったりしている地理的事象を整理しながら、その中から適切な主題を決定させる学習を丁寧に進める

例) 調査する方法

①主題の設定

調べる内容について焦点化し、主題として設定する

- * 主題の設定に当たっては、あまり大きなものとせず、日ごろの関心事や自分たちの生活との接点があり具体的なもので、かつ調査資料の得やすいものが望ましい。さらに、調査事項の記述やまとめが地図に表現できるものかどうかの一つの選択肢

②調査方法の吟味

何を明らかにしたいのかの調査のねらいを定め、どのような調査方法を行うかについて、調査の見通しを立てる

- * 「なぜこの地域には、このような地理的事象がみられるのか」「なぜこの地域には、このような特色ある生活・文化が根付いているのか」といった問いかけを基にして課題を見だし、その解決のための適切な資料を選択、収集する見通しを立てることが必要

③資料の収集と選択

調査を始めるに当たって、主題を明らかにするために、必要な各種資料とその収集方法を吟味し、資料の収集、選択を行う

- * 課題の解決に役立つ資料には何があるかを考えるとともに、必要な資料を収集すること

④調査活動

調査のねらいにより、収集した資料を活用してその内容を読み取ったり、地図化したりする

- * 「なぜこの地域にはこのような地理的事象がみられるのか」「なぜこのような地域的特色をもっているのか」という問いかけを基にして、課題を解き明かしていくことが必要
- * 様々な資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したりするなどの作業的な学習活動を取り入れるとともに、資料の処理や分析に力を入れるなどの取扱いの工夫が求められる

⑤レポートの作成

調査した結果を整理し、ふさわしい記述や説明の方法を考え、レポートにまとめる

- * 調べた結果を文章で表現したり、グラフや表にして分かりやすく示したり、地図を活用して表現したりすることがポイント
- * レポートの作成に当たっては、調査方法や内容の概要を相手の的確に伝えるために、基本的な記述の構成や仕方があることを理解させることが大切である

一般的な構成例：

- 1) 調査の動機
- 2) 調査の目的
- 3) 調査の方法
- 4) 調査の内容と結果の考察
- 5) 感想や今後の課題
- 6) 参考資料など

* 調査結果も大切であるが、

- ・事実と自分自身が考えたり解釈したりしたことをはっきり分けて書くこと
 - ・そのように判断した根拠を示してまとめること
 - ・図や表を使ったり地図上に表現したりすること
 - ・要点を自分の言葉で簡潔にまとめること
- などに留意することが大切である

⑥発表会などの開催

調査内容にふさわしい方法を用いて発表する

学習の手立ての例

<主題の設定>

- ・「世界の諸地域」の学習で興味を持った地域や国について、更に調べたい内容やキーワードを出し合い、主題を決定する
- ・調べたい地域や国について基礎的な資料をもう一度調査し、ウェビングマップやK J法を活用して主題を決定する
- ・興味を持った地域や国ごとにグループを編成し、自然、産業、生活・文化、歴史的背景等、様々な視点から追究できるように主題を設定する
- ・生徒の実態に応じて、産業と他国との結び付き、生活文化と自然環境等、幾つかの視点を関連付けた主題を設定する

例)

- ・「アジアの特色ある食文化の背景を考えよう」
- ・「ヨーロッパの地域格差について追究しよう」
- ・「北アメリカの大規模農業の今後について考察しよう」
- ・「アフリカを経済発展させる条件を考えよう」
- ・「南アメリカの環境破壊について追究しよう」
- ・「オーストラリアと日本との関係の変化について調べ、考察しよう」

<調査>

- ・調査する目的、内容から、調査の計画を立てる
- ・生徒の実態に応じて、調べる内容、まとめる際の項目等をあらかじめ吟味しておく
- ・地図帳、観光ガイドブック、新聞、テレビ、インターネット等から、分布図、統計資料、映像資料、文献資料等、様々な資料を収集する
- ・調査結果をまとめるために、資料を吟味し、必要な資料を精選する

<まとめ・発表>

- ・集めた資料や情報をわかりやすく表現できるように、文章だけでなく図や地図等を活用したり、作成したりしてまとめる
- ・生徒の実態に応じて、レポートの作成の仕方、グラフや分布図の作り方を習得させ、まとめに活用する
- ・文章にする際には、文献に書かれている文章をそのまま記述せず、自分の言葉に直して表現する
- ・グループで調査研究の発表を行い、より分かりやすいまとめや発表になるよう意見交換をする
- ・電子黒板や実物投影機等を活用して、根拠となる資料等を学級全体で共有しながら発表する
- ・発表を聞くための視点を示したワークシート等を活用し、目的意識を持って聞く

(2) 日本の様々な地域

ア 日本の地域構成

地球儀や地図を活用し、我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などを取り上げ、日本の地域構成を大観させる。

(内容の取扱い)

ア アについては、次のとおり取り扱うものとする。

- (ア) 「領域の特色と変化」については、我が国の海洋国家としての特色を取り上げるとともに、北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題にも着目させるようにすること。
- (イ) 日本の地域区分を扱う際には、都道府県の名称と位置のほかに都道府県庁所在地名も取り上げること。
- (ウ) 学習全体を通して、大まかに日本地図を描けるようにすること。

主な学習内容

◇地球儀や地図の活用

「国土の位置」を取り上げる：

- ・緯度と経度を使って同緯度、同経度の国々に着目するなどして国土の絶対的位置（数的位置）をとらえさせることのほかに、様々な相対的位置（関係的位置）も取り上げる

- 例）日本はユーラシア大陸の東に位置するというように隣接する大陸や海洋、近隣の国々との位置関係によってとらえる
- ・地球儀や地図を様々な視点から眺めて、世界各地から我が国へ到達する経路をたどりながら我が国の位置をとらえる
 - ・ある国を中心にして世界各地との位置関係をみた中で我が国の位置の特色をとらえる

「世界各地との時差」を取り上げる：

- ・日本と世界各地との時差から地球上における我が国と世界各地との位置関係を理解させる

- 例）海外と衛星中継しているテレビのニュース番組の映像を活用するなどの国際化した生活場面と関連付ける
- ・等時帯や日付変更線を示す地図と地球儀を見比べる
 - ・簡単な時差の計算をする
 - *数学科の第1学年における「正の数と負の数の必要性和意味を理解すること」などの学習成果を活用
 - *本初子午線を基準として東半球にある日本と西半球にある諸都市との時差を計算することを通して、我が国と世界各地との位置関係の理解を促す

「領域の特色と変化」：

「領域」：領土だけでなく、領海、領空から成り立っており、それらが一体的な関係にあることをとらえさせる

「特色と変化」：我が国の海洋国家としての特色を様々な面から取り扱う

- 例）我が国の領土はたくさんの島々からなり、それらは弧状に連なっていること
- ・他の国々と国土面積で比較したり、領海や排他的経済水域を含めた面積で比較したりする
 - *我が国は四面環海の国土であるため直接他国と陸地を接していないことに着目させ、国境がもつ意味について考えさせたり、我が国が正当に主張している立場に基づいて、当面する領土問題や経済水域の問題などに着目させたりすることも大切である
 - *北方領土（歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島）については、
 - ・その位置と範囲を確認させる
 - ・北方領土は我が国の固有の領土であるが、現在ロシア連邦によって不法に占拠されているため、その返還を求めていること
 - ・などについて、的確に扱う
 - *我が国と韓国の間には竹島をめぐって主張に相違があることなどにも触れ、北方領土と同様に我が国の領土・領域について理解を深めさせる

→高地理A (1) ア
・地球儀や地図からとらえる現代世界

→高地理B (1) ア
・地理情報と地図

→高地理B (2) エ
・生活文化、民族・宗教

→高現代社会 (2) オ
・国際社会の動向と日本の果たすべき役割

→高政治・経済 (1) イ
・現代の国際政治

小5 社会 (1) ア →
・世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土

中地理 (1) ア →
・世界の地域構成

小3,4 社会(6)ア →
・県内における自分たちの市(町)及び我が国における自分たちの県の地理的位置, 47 都道府県の名称と位置

中地理(1)ア
(内容の取扱い) →
・学習全体を通して, 大まかに世界地図を描けるようになる

「地域区分」:

- 例) ・西日本と東日本というように日本を二分してとらえる
- ・西南日本(西日本)と中部日本(中央日本)と東北日本(東日本, 北日本)というように区分してとらえる
- ・九州, 中国・四国, 近畿, 中部, 関東, 東北, 北海道の七地方に区分してとらえる
- * 中部地方を北陸地方, 中央高地, 東海地方に分けるように, 七地方区分の各地方を幾つかに分ける区分もみられる
- * 行政区分に基つかない地域区分もある

例) ・気候区分のように地域の等質性に着目して地域区分したもの

- ・商圏, 都市圏などのように機能的に結び付く範囲によって地域区分したものなど

* 日本の地域区分を扱う際には, 都道府県の名称と位置のほかに都道府県庁所在地名も取り上げる

例) ・日本地図を使って都道府県の名称と位置を確認したり, 自分の描いた略地図に位置と名称を書き込んだりする

- ・県庁所在地名も日本地図で確認する
- ・自然及び社会的条件という視点から各都道府県庁所在地の共通性を探りながら調べる

* 生徒が小学校で学習した内容を整理し確認しながら学習を進め, 都道府県の名称と位置及び都道府県庁所在地名を単に覚えるだけの学習活動にならないよう配慮する

* 内容の(2)「ウ 日本の諸地域」においても適宜取り上げ, その知識の定着を図る

◎日本の地域構成を大観させる

- ・我が国の国土の地域構成を大まかにとらえられるようにする

* 学習全体を通して, 大まかに日本地図を描けるようにする

- ・日本の領域の広がりや東経 135 度の経線などに留意しつつ, 日本を構成する主な島々の大まかな形状や位置関係が分かる程度の略地図が描けるようになること

例) ・日本の略地図に東西南北端などの領土の端を描き加える

- ・様々な地域区分を書き入れたりする

学習の手立ての例

- ・既習事項を活用し, 大陸, 州, 海洋の名称, 緯度・経度などを使って, 日本の位置を表現する
- ・日本と関係の深い国と日本の時差を各々の経度から計算で求める
- ・海外で行われているスポーツ大会の開催時刻が, 日本では何時になるか計算で求める
- ★時差を考慮して仮想の外国旅行の計画を立てる
 - ・日本の最北端, 最南端等を, 地図を使って確認させる
 - ・最近の新聞記事から領土問題を取り上げ, 重要性を認識させる
- ★領土問題(北方領土, 竹島)として取り上げられている地域を地図で確認するとともに, 歴史的な背景を調べる
 - ・天気予報や旅行会社のパンフレットを使い, 様々な地域区分を認識する
- 🏠 雑煮に入れる餅の形, JRの営業区分, 電力会社等によって日本を区分して白地図に表現し, 静岡県の区分について確認し, その理由を考察する
 - ・小学校での学習を生かし, 都道府県や県庁所在地の位置や名称を, ゲームを取り入れるなどして習得する
- ★統計資料から都道府県における様々なテーマのランキングを調べ, 白地図を色分けするとともに, 上位に位置している県名, 県庁所在地を記入して分布図を作成する
 - ・日本の略地図を作成し, 七地方区分に分ける
- ★自分の作成した略地図を活用して, 分布図を作成する

(2) 日本の様々な地域

イ 世界と比べた日本の地域的特色

世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土の特色を様々な面から大観させる。

(内容の取扱い)

イ イの(ア)から(エ)で示した日本の地域的特色については、指導に当たって内容の(1)の学習成果を生かすとともに、日本の諸地域的特色について理解を深めるための基本的な事柄で構成すること。

「世界的視野」：世界的視野から日本を一つの地域として取り扱う

「日本全体の視野」：日本全体の視野から大まかな国内の地域差に着目させる

* 「(1)世界の様々な地域」の学習成果を生かすことを踏まえて世界的視野から日本の地域的特色を取り上げる

例) 次の二つの場合を踏まえて比較し関連付ける

- ①世界の気候区分図のように、世界を大きく地域区分しているようなものである場合は、日本がどの気候区に位置付けられているかということから日本の地域的特色を理解する
- ②産業統計のように、国を単位にして集計されているものについては、各国の比較によって日本の地域的特色を理解する

◇地図帳・資料の活用

・細部にわたる事柄は扱わずに、地図帳を十分に活用しながら日本全体としての地域的特色を理解させる

◎我が国の国土の特色を様々な面から大観させる

(7) 自然環境

世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。

- 中地理(1) →
- ・世界の様々な地域
- 小5社会(1)イ →
- ・国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活
- 小5社会(1)エ →
- ・国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止
- 小3,4社会(4) →
- ・地域社会における災害及び事故の防止について、…人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする
- 小6社会(2)ウ (内容の取扱い) →
- ・「地方公共団体や国の政治の働き」については…、災害復旧の取組…などの中から選択して取り上げ、具体的に調べられるようにする

主な学習内容

「世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させる」:

- ・世界には大地の不安定な地域もあれば安定した地域もある中で、我が国は環太平洋造山地帯に属して地震や火山の多い不安定な大地上に位置している
 - ・世界を気候や植生に着目してみると、熱帯から寒帯、砂漠から森林におおわれた地域までみられる中で、我が国の多くの地域は温帯に属し、降水量も多く、森林、樹木が成長しやすい環境にある
 - ・日本の国土は海に囲まれ多くの島々から構成されている
 - ・近海は海底に大陸棚が広がり、寒暖の海流が出会い世界的な漁場となっている
- といった程度の内容を取り扱うこと

◎国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる:

- ・我が国の地形や気候と関連する自然災害と防災への努力を取り上げることで、日本全体の視野から日本の自然環境を大きくとらえる
- 例) ・地形的にはフォッサ・マグナを境にして、西南日本には東西の方向に、東北日本には南北の方向に背骨のように山脈が走り、堆積平野の特色をもった規模の小さな平野が臨海部に点在している
- ・海岸線では砂浜海岸や岩石海岸などから構成され多様な景観がみられる
- ・気候的には、南と北、太平洋側と日本海側、内陸部と臨海部とで、気温、降水量とその月別の変化などに違いがみられ、それらを基にして各地の気候を比較すると幾つかに気候区分できる

→高地理A(1)イ
・世界の生活・文化の多様性

→高地理B(2)ア
・自然環境

→高地理A(2)イ
・自然環境と防災

・自然災害の面からみると地震や台風などの多様な自然災害の発生しやすい地域が多く、そのため早くから防災対策に努めてきたといった程度の内容を取り扱うこと

学習の手立ての例

- ・世界各地の様々な自然環境の写真と日本のものを比較し、違いや共通点を挙げる
 - ・日本に地震や火山の噴火等が多い理由を、造山帯と関連付けて説明する
 - ・日本と外国の河川を比較し、地形と関連付けてその特色を表現する
 - ・日本の山脈と海流等を白地図に記入し、その特色を箇条書きで記述する
 - ・扇状地、三角州、台地、盆地等の土地利用の様子を表に整理してまとめる
 - ・世界の気候帯を色分けし、両極や赤道との位置との関連を考察する
 - ・雨温図や写真資料等を活用し、日本海側と太平洋側の気候の特色を文章で表現する
 - ・外国人観光客の立場で、日本の気候についての印象を考える
 - ・日本とは違った気候帯の地域に暮らす外国人が、日本に来た時の気候や生活についての感想を想像する
 - ・日本の気候区分を白地図に示し、雨温図からその特色を整理する
 - ・日本における自然災害について、新聞資料等の資料から調査して、その原因をまとめる
- 📍 静岡県における過去の自然災害について調べ、その原因を自然環境と関連付けて考察する

1498年：明応地震

1707年：宝永地震（宝永噴火）

1783年：天明の大飢饉

1854年：安政東海地震

1923年：関東大震災

1944年：東南海地震

1958年：狩野川台風

1959年：伊勢湾台風

1974年：七夕豪雨 等

📍 静岡県の防災への取組を調べ、まとめるとともに、自分たちにできる取組について考える

📍 地域のハザードマップを作ったり、調べたりすることで、地域の防災対策を考える

(1) 人口

世界的視野から日本の人口と人口密度，少子高齢化の課題を理解させるとともに，国内の人口分布，過疎・過密問題を取り上げ，日本の人口に関する特色を大観させる。

主な学習内容

中地理(1) →
・世界の様々な地域

「世界的視野から日本の人口と人口密度，少子高齢化の課題を理解させる」:

- ・我が国は人口が1億人を超える数少ない国の一つである
 - ・世界の人口分布図をみると，不均等な分布が目立つ中で，我が国は人口集中地域の一つになっている
 - ・世界には人口の増減や移動などに伴う様々な人口問題がみられる中で，我が国の場合は世界に類をみない速さで少子化，高齢化が進んだことに伴う課題に直面している
- ことに特色がみられるといった程度の内容を取り扱うこと
*その際に，人口分布図や人口ピラミッドを読み取る作業を取り入れるなどの工夫が必要である

→高地理A(1)ウ
・地球的課題の地理的考察

→高地理B(2)ウ
・人口，都市・村落

→高政治・経済(3)ア
・現代日本の政治や経済の諸課題

◎国内の人口分布，過疎・過密問題を取り上げ，日本の人口に関する特色を大観させる:

- ・世界的視野で見ると日本全体が人口集中地域になっているようにみえるが，日本の人口分布をみると
 - ・不均等な分布がみられ，平野部への人口集中が目立つ一方で山間部は人口の希薄な地域になっている
 - ・平野部には大都市圏が発達して過密地域が，山間部には集落がまばらに点在しているような過疎地域がみられる
- といった程度の内容を取り扱うこと

学習の手立ての例

- ・世界の人口分布図と世界地図，世界の気候区分図とを比較し，関連を考察する
 - ・世界で人口が集中している地域を分布図等から読み取り，その理由を考察する
 - ・人口ピラミッドから世界各国と日本の人口構成の共通点や違いを捉える
 - ★日本の人口ピラミッドを年代別に作成し，その変化から，日本の人口構成の変化を読み取り，原因を考察する
 - ・日本の人口分布図から人口が集中している地域を読み取り，地形や社会的条件との関連を考察する
 - ・大都市における過密によって起こる問題点を考え，箇条書きで記述する
 - ・日本で少子高齢化が進んだ理由について資料から読み取り，今後の課題について考察する
- 📍静岡県で人口が減っている地域の過疎化対策を調べる

(ウ) 資源・エネルギーと産業

世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解させるとともに、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を取り上げ、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観させる。

中地理(1) →

・世界の様々な地域
小3,4社会(4) →
・地域の人々の生活
にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について…

小5社会(1)ウ →

・公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ

小5社会(2)ア →

・様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること

小5社会(2)イ →

・我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など

小5社会(3)イ →

・我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など

主な学習内容

「世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解させる」:

・世界にはエネルギー資源や鉱産資源が不均等に分布する中で、それらの資源に恵まれている国や恵まれていない国がみられるが、我が国はそれらの資源のほとんどに恵まれていないため、我が国で消費するそれらの資源の大部分を海外からの輸入に依存していることといった程度の内容を取り扱うこと

◎国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を取り上げ、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観させる:

・世界的視野で見ると我が国は先進工業国ととらえられているが、日本全体の視野で見ると

・太平洋ベルトには、工業や流通、金融、情報などに関する産業の盛んな地域がみられ、日本海側や北海道などには農業や水産業、地場産業、観光産業の盛んな地域がみられるなど、自然及び社会的条件によって産業の地域的分業が進み、交通機関の発達などによって各産業地域は変容している

・世界的視野から見ると、我が国は資源やエネルギーの大量消費に伴う環境問題、エネルギー問題を抱えた国の一つであるが、日本全体の視野で見ると

・その現れ方には地域差がみられる
・風力発電や太陽光発電などの新しいエネルギーの開発に努力している
といった程度の内容を取り扱うこと

→高地理A(1)ウ

・地球的課題の地理的考察

→高地理B(2)イ

・資源、産業

→高政治・経済(3)イ

・国際社会の政治や経済の諸課題

学習の手立ての例

- ・世界の鉱産資源の生産、エネルギー消費の分布図から、その特色を文章で表現する
- ・統計資料から、日本の資源問題に着目させ、現代のエネルギー問題を捉える
- ・日本の鉱産資源の輸入先を調べ、白地図にまとめる
- ・火力、原子力、水力発電の特徴と分布の特色を表にまとめる
- ↳新しいエネルギー開発（風力発電、太陽光発電等）における静岡県の取組を調べる
 - ・日本の産業別人口の割合の変化のグラフから、その変化を読み取り、原因を考察する
 - ・農業従事者一人当たりの農地面積、機械の保有台数、収穫量をアメリカ等の外国と比較することによって、日本の農業の特色を捉え、文章で表現する
 - ・日本の第一次産業の生産高、就業人数の変化等のグラフの読み取りから、今後の課題をまとめる
 - ・日本の工業地域の出荷額の内訳とその変化を読み取り、その原因を、自然及び社会的条件から考察するとともに、日本の工業の特色とその変化を説明する
 - ・産業別人口に占める第三次産業の割合を色分けするなどして白地図にまとめ、考察することで、第三次産業の特色を捉える
- ↳自分が住んでいる地域や隣接地域の産業の変容について調べ、日本の産業の動向と比較・関連付けて考察する

(I) 地域間の結び付き

世界的視野から日本と世界との交通・通信網の発達の様子や物流を理解させるとともに、国内の交通・通信網の整備状況を取り上げ、日本と世界の結び付きや国内各地の結び付きの特色を大観させる。

- 中地理(1) →
 ・世界の様々な地域
- 小5社会(2)ウ →
 ・…生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き
- 小5社会(3)ウ →
 ・…工業生産を支える貿易や運輸などの働き
- 小5社会(4) →
 ・我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、…情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする

主な学習内容

「世界的視野から日本と世界との交通・通信網の発達の様子や物流を理解させる」:

- ・世界の空や海の交通網そして通信網をみると、それらが集中する拠点が幾つかみられる中で、日本もその一つに数えられる
 - ・物資の国際間の移動の様子をみると、日本は世界的にみても活発であることから世界各地と強く結び付いている
 - ・しかし、そうした結び付きをよくみると、様々な面で強く結び付いている地域や、特定のことで結び付いている地域、相対的にみてまだ結び付きの弱い地域がみられる
- といった程度の内容を取り扱うこと

◎国内の交通・通信網の整備状況を取り上げ、日本と世界の結び付きや国内各地の結び付きの特色を大観させる:

- ・我が国では、新幹線、高速道路、航路・航空路網、情報通信ネットワークなどの整備が進み、国内各地の時間的な距離が短縮され、それに伴って各地域間の結び付きが変化していること
 - ・しかし、地方都市間では時間的な距離が短縮されていないところもある
- といった程度の内容を取り扱うこと

→高地理A(1)ア
 ・地球儀や地図からとらえる現代世界

学習の手立ての例

- ・世界の主な航空路が示された地図を読み取り、日本とつながりの強い国や弱い国と、その理由を考察する
 - ・日本の貿易の変化のグラフ等から、日本の貿易相手国の変化について読み取る
 - ・航空輸送と海上輸送の違いを、輸送される品物を挙げ、その利点や欠点からまとめる
 - ・鉄道や航空路による輸送時間等の変化が、私たちの生活に与える影響について考察する
 - ・情報ネットワークを発達させた通信機器を挙げる
 - ・交通網や通信網が発達した現在の日本の課題（地域格差を含む）について考える
- 📍富士山静岡空港を題材に、世界との結び付きを考える
 （御前崎港・清水港・田子の浦港等も題材として考えられる）

(2) 日本の様々な地域

ウ 日本の諸地域

日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、以下の(ア)から(キ)で示した考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。

(内容の取扱い)

ウ ウについては、次のとおり取り扱うものとする。

(ア) 地域区分については、指導の観点や学校所在地の事情などを考慮して適切に決めること。

(イ) 指導に当たっては、地域的特色ある事象や事柄を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて、地域的特色を追究するようにすること。

(ウ) (ア)から(キ)の考察の仕方については、学習する地域ごとに一つ選択すること。また、ウの学習全体を通してすべて取り扱うこと。

(ア)から(キ)で示した考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる

* 指導内容の構成については：

① 「(ア)から(キ)で示した考察の仕方」を基にして、地域的特色を端的に示す地理的事象を選択し、それを中核として指導内容を構成すること

② その際、中核とした地理的事象は、他の事象ともかかわり合って成り立っていることに着目して、それらを有機的に関連付けるかたちで取り上げること

③ 調べ、追究する学習活動を通して地域的特色をとらえさせること

などに留意する必要がある

* 学習するそれぞれの地域についての指導内容は、「(ア)から(キ)で示した考察の仕方」の中から一つを選択し、それに基づいて構成する

* 地域的特色を網羅的、並列的に扱うのではなく、あくまでも中核とした地理的事象を他の事象と有機的に関連付けて追究する学習活動を展開すること

* 特定の「考察の仕方」に偏った学習にならないよう、(ア)から(キ)で示したすべての「考察の仕方」を取り扱う必要がある

「日本を幾つかの地域に区分」する：

* 「(ア)から(キ)で示した考察の仕方」に基づいて適切に地域的特色を追究できるよう、地域の規模や等質地域、機能地域といった地域のとらえ方にも留意する

* 「指導の観点や学校所在地の事情などを考慮して適切に決めること」を踏まえて地域区分し、この中項目の学習を通して、我が国の国土に対する認識を深めることができるようにすることが大切である

* 地域区分は細分化し過ぎないようにする

* 最低でも日本を七つの地域に区分する

* 「指導の観点や学校所在地の事情など」を考慮して、七つよりも多くの地域に区分することも考えられる

* 「(ア)から(キ)の考察の仕方」を「ウの学習全体を通してすべて取り扱うこと」ができるように計画的に指導する

* 地域の指導の順序についても、「指導の観点や学校所在地の地域の事情などを考慮して適切に決めること」に留意する必要がある

以下の(ア)から(キ)で示した考察の仕方：

・「考察の仕方」：中核とした地理的事象と、それをどのような他の事象と関連付け、どのようなことに着目して考察すればよいのか、地域的特色を追究し考察する方法を示しており、このような学習を通して地理的な見方や考え方の基礎を培うことができる

◎地域的特色をとらえさせる：

・以下の(ア)から(キ)で示した考察の仕方」を基にして、「地域的特色ある事象や事柄を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて、地域的特色を追究するようにすること」に留意する

・有機的に関連付け：地域的特色は、様々な事象が結び付き、影響を及ぼし合って成り立っていることに着目して、地域的特色を中核となる地理的事象と他の事象との関連からとらえ、その成り立ちを考察する

・追究するようにすること：生徒が、地理的事象を見いだしてその特色を調べたり、事象間の関連を考察したりして、地域的特色をとらえていくような学習活動

・この学習の結果、学習した地域的特色がある程度総合的にとらえられるようにすること

◇資料の活用、追究した過程や結果を適切に表現する活動

・「(ア)から(キ)で示した考察の仕方」を基にして、地域的特色を追究するための適切な課題を設定し、様々な資料を適切に活用して地域的特色を考察し、追究した過程や結果を適切に表現するといった学習活動

* この中項目全体を通して、地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導することに留意する必要がある

(7) 自然環境を中核とした考察

地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連付け、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える。

- 中地理(2)イ →
・世界と比べた日本の地域的特色
- (7) 自然環境
- 小5社会(1)イ →
・国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活
- 小5社会(1)エ →
・国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止
- 小3,4社会(4) →
・地域社会における災害及び事故の防止について、…人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする
- 小6社会(2)ウ (内容の取扱い) →
・「地方公共団体や国の政治の働き」については…、災害復旧の取組…などの中から選択して取り上げ、…

主な学習内容

「地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として」:

- ・地域の自然環境に関する特色ある地理的事象に着目し、それを中核として地域的特色をとらえさせること
例) ・火山が多く分布し、火山灰が厚く堆積している地域がみられる
・比較的温暖な地域であるが、台風の襲来による自然災害が多い
- ・それを、人々の生活や産業などに関する地理的事象と関連付けて追究し、考察することで、
・火山灰の堆積した台地を開発して茶の栽培や畜産を発達させている
・温暖な気候を生かし花卉栽培を営む農業の工夫がある
・台風に備えた生活の工夫をしている
などといった、地域的特色をとらえる
*単に地域の自然環境の特色を羅列的に扱うのではないことに留意する必要がある

「自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える」:

- ・地域の地理的事象の形成や特色を理解するためには
・自然環境が人々の生活や産業などの人々の営みと深い関係をもっていること
・様々な自然災害に対する防災対策が必要であること
などを踏まえて考察することが必要である

◎地域的特色をとらえさせる

→高地理A(1)イ
・世界の生活・文化の多様性

→高地理B(2)ア
・自然環境

→高地理A(2)イ
・自然環境と防災

学習の手立ての例

＜北海道地方＞

- ・統計資料、写真等の資料を活用し、他の地方と比較することによって、北海道地方の自然環境の特色を捉え、「厳しい自然環境を、人々はどうのように乗り越え、活用しているだろうか」という課題を設定する
- ・寒さや自然災害に対応するための工夫や、産業等に活用している様子等と自然環境を関連付けて考察する
- ・学習したことを図に整理し、北海道地方の特色を自分の言葉でまとめる

＜中部地方＞

- ・東海地方、中央高地、北陸地方の雨温図と地形図を比較し、自然環境の違いを読み取り、「東海地方、中央高地、北陸地方の自然環境の違いは、産業や人々の生活にどのような影響を与えているだろうか」という課題を設定する
- ・各地方で盛んな産業について調べ、自然環境に関連付けて考察する
- ・自然環境によってもたらされる自然災害とその対策や人々の生活上の工夫について調べ、比較する
- ・学習したことを地方別にウェビングマップに整理し、各地方の特色及び中部地方の特色を、自分の言葉でまとめる

＜九州地方＞

- ・地図や雨温図、様々な景観を表した写真等の資料から、温暖で多雨な気候や火山やシラス台地等の自然環境の特色を捉え、「特色ある自然環境は、人々の生活にどのような影響を与えているだろうか」という課題を設定する
- ・「火山がもたらす恵みと課題」「温暖な気候と産業の関係」等のサブテーマを設定して追究する
- ・自然を生かした産業が発展した歴史的背景や交通網の整備等を関連付けて考察することによって、火山等の自然環境を様々な防災対策によって克服し、産業の発展等に生かしながら生きている人々の生活を理解する
- ・白地図に、学んだことを整理するなどして、九州地方の特色を自分の言葉でまとめる

(4) 歴史的背景を中核とした考察

地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事柄を中核として、それを国内外の他地域との結び付きや自然環境などと関連付け、地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景がかかわっていることなどについて考える。

小3, 4 社会(5) →

・地域の人々の生活について、…人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする

中歴史(1)イ →

・身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる

主な学習内容

「地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事柄を中核として」:

- ・地域を特色付ける産業や文化が形成された歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事柄に着目し、それを中核として地域的特色をとらえさせること

「それを国内外の他地域との結び付きや自然環境などと関連付け」:

- 例) ・地域の地理的位置の変容を他地域との結び付きの変化との関連でとらえたり
- ・地域の産業や開発の動向を自然環境への働きかけという観点から関連付けたりして追究する

「地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景がかかわっていることなどについて考える」:

- ・地域の地理的事象の形成や特色を理解するためには、地理的位置の変化や地理的事象が成立した歴史的背景をとらえるなど地理的条件と歴史的条件とのかかわりなどを踏まえて考察することが必要である

◎地域的特色をとらえさせる

学習の手立ての例

<北海道地方>

- ・統計資料や地図、景観写真等の資料から特色ある農地や街の景観を読み取り、「北海道地方では、どのようにして特色ある農地の開発や街づくりが進められていったのか」という課題を設定する
- ・開拓使や屯田兵村の設置と石狩平野の開発、十勝平野や根釧台地の開発の歴史を調べる
- ・開発の歴史と北海道地方の自然環境と関連付け、北海道地方の冷涼な気候と土壌の特色、自然環境へ働きかけ開発に努力した人々の営み、稲作拡大の様子や畑作、酪農地域の分布を理解する
- ・都市・村落の立地や人口移動と関連付け、開拓使や屯田兵村の設置を出発点として、その後も計画的な都市開発や農地の開拓が行われた歴史的背景が、北海道の特徴的な景観の形成に関わっていることなどを捉える
- ・追究の過程や考察の結果を、地図を活用して表現したり、事象間の関連を互いに説明したりする

<中部地方>

- ・地図や統計資料等より、中部地方の工業地域や都市の分布、耕地利用とその変化について読み取り、「どのような歴史的な背景の基に、中部地方の産業や都市が発展したのだろうか」という課題を設定する
- ・中部地方で生産が盛んな工業製品（輸送用機械、楽器、精密機械等）や農業生産物（茶、レタス、もも、米等）が、どのような経緯によって生産され始めたか、歴史的背景だけでなく、自然環境への働き掛けという観点等から文献やインターネット等を活用して調べる
- ・都市や産業の発展を江戸時代の城下町の成り立ちや交通網の整備発展の歴史と関連付けて考察することで、産業や都市の発展の要因について理解する
- ・中部地方の産業や都市が発展した要因について、今までの学習を振り返り、自分の言葉でまとめる

<近畿地方>

- ・地図や写真等の資料から伝統的な建物や文化等が多く存在している近畿地方の特色を読み取り、「産業や人々の生活は、歴史の中でどのように変化していったのだろうか」という課題を設定する
- ・歴史的な町並みや伝統的な産業、自然環境の保護の取組、産業や生活の変化等を調べる
- ・調べたことを比較・関連付けて考察し、伝統的な文化等と共存しながら歩んできた歴史を理解する
- ・産業や人々の生活が変化してきた様子を白地図や表にまとめ、近畿地方の特色を自分の言葉でまとめる

(ウ) 産業を中核とした考察

地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象を中核として、それを成立させている地理的諸条件と関連付け、地域に果たす産業の役割やその動向は他の事象との関連で変化することなどについて考える。

中地理(2)イ →
・世界と比べた日本の地域的特色
(ウ) 資源・エネルギーと産業

小5社会(2) →
・我が国の農業や水産業について、…それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする

小5社会(3) →
・我が国の工業生産について、…それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする

主な学習内容**「地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象を中核として」:**

- ・地域の産業に関する特色ある地理的事象に着目し、それを中核として地域的特色をとらえさせること

「それを成立させている地理的諸条件と関連付け」:

- ・産業の立地は、幾つかの地理的諸条件が関連し合って作用していることに留意し、地域的特色を追究する

例) 野菜産地を成立させている要因を

- ・気候や土壌などの自然的条件
 - ・消費地との位置関係や他産地との競合関係、生産に携わる人々の工夫などといった社会的条件
- との両面から関連付けて地域的特色を追究する

「地域に果たす産業の役割やその動向は他の事象との関連で変化することなどについて考える」:

- ・地域の地理的事象の形成や特色を理解するためには、特色ある産業地域の形成など産業が地域において果たしている役割や地域の産業の動向は、それを成立させている地理的諸条件の変化や他地域との関係などに伴って変化することなどを踏まえて考察することが必要である

→高地理B(2)イ
・資源, 産業

→高政治・経済(3)ア
・現代日本の政治や経済の諸課題

◎地域的特色をとらえさせる**学習の手立ての例**

<中部地方>

- ・分布図や統計資料等を活用して、各産業に占める中部地方の割合を読み取り、「全国的にみて、各産業に占める中部地方の割合が高い理由を追究しよう」という課題を設定する
- ・自然環境や消費地、原料供給地との関係等、その産業を成立させている条件や、その産業の動向等を、地理的諸条件とその変化に関連付けて追究して考察する
- ・一人一人の生徒が「日本海側で稲作が盛んな理由を調べよう」等のサブテーマを設定して追究する
- ・調査して集めた資料等を選択し、吟味し、分布図や地図などを活用してレポートにまとめる
- ・サブテーマが類似したグループを作り、自分のレポートを発表し、グループごとに自分たちの追究で分かったことをまとめる
- ・追究結果を全体で発表した後、全国的にみて、各産業に占める中部地方の割合が高い理由を、発表内容を再構成してまとめる

(I) 環境問題や環境保全を中核とした考察

地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。

小3,4 社会(3) →

・地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について…これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする

小5 社会(1)ウ →

・公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ

小5 社会(1)エ →

・国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

主な学習内容

「地域の環境問題や環境保全の取組を中核として」:

- ・地域の環境問題や環境保全の取組に関する特色ある地理的事象に着目し、それを中核として地域的特色をとらえさせること

「それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け」:

- ・地域の産業の動向、地域開発の動向、人口の過密化、都市化といった地域の変容や人々の生活様式の変化などを取り上げ、これらと関連付けて地域的特色を追究すること

「持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える」:

- ・地域の地理的事象の形成や特色を理解するためには、持続可能な地域社会の構築のためには地域の環境負荷を最小限にとどめ、環境保全の取組が大切になることなどを踏まえて考察することが必要である

◎地域的特色をとらえさせる

→高地理B(2)ア

・自然環境

→高現代社会(1)

・現代に生きる私たちの課題

→高政治・経済(2)ア

・現代経済の仕組みと特質

学習の手立ての例

<中部地方>

- ・統計資料や地形図、写真等を活用して、中部地方には、豊かな森林資源があることをつかませるとともに、天然林面積の減少、放置林の増加等の森林資源の問題があることを捉えさせ、その問題が中部地方の人々の生活やその変化に影響していることを捉える
- ・「中部地方における、環境問題や環境保全への取組を追究しよう」という課題を設定する
- ・中部地方の各県や、人々の森林資源等への環境保全への取組を追究し、持続可能な地域社会の構築に必要なことを見つける
- ・「中部地方における、環境問題や環境保全への取組」を、白地図を活用してまとめる

<近畿地方>

- ・雨温図や地形図から近畿地方の自然環境とともに、琵琶湖の水が、滋賀県だけでなく、近畿地方の他県においても活用されている状況を捉え「琵琶湖やそれにつながる川の水と人々の生活や産業との関連を追究しよう」という課題を設定する
- ・琵琶湖の水利用の歴史、琵琶湖やそれに付随する川の水が、どのように使われているかを調べ、阪神工業地帯等の産業や阪神大都市圏の広がり等の人口分布との関連などについて考察する
- ・琵琶湖とそれに付随する川における汚染等の環境問題と、それを生み出した背景、環境保全の取組について調べるとともに、近畿地方における持続可能な地域社会の開発について考え、自分の言葉でまとめる

<九州地方>

- ・地図や雨温図、様々な景観を表した写真等の資料から、温暖で多雨な気候や火山やシラス台地等の自然環境、早くから工業が発展してきた等の特色を捉え、「九州地方の人々と環境との関わりを追究しよう」という課題を設定する
- ・「産業の発展は、環境にどのような影響を与えたのだろうか」「人々は環境をどのように活用しているのだろうか」「環境保全に向けてどのような取組をしているのだろうか」等のサブテーマを設けて追究する
- ・環境と産業や人々の生活等を関連付けて考察し、特色ある自然環境の保全や活用をしながら、持続可能な社会に向けて取り組んでいる等の特色を捉える
- ・環境と人々との関わりを表や図に整理するなどしてまとめ、九州地方の特色を自分の言葉で説明する

(オ) 人口や都市・村落を中核とした考察

地域の人口の分布や動態，都市・村落の立地や機能に関する特色ある事象を中核として，それを人々の生活や産業などと関連付け，過疎・過密問題の解決が地域の課題になっていることなどについて考える。

主な学習内容

中地理(2)イ →
・世界と比べた日本の地域的特色
(4) 人口

「地域の人口の分布や動態，都市・村落の立地や機能に関する特色ある事象を中核として」:

例) 都市部への人口流入と過密化，過疎化，都市圏の成立など，人口や都市・村落に関する特色ある地理的事象に着目し，それを中核として地域的特色をとらえさせること

「それを人々の生活や産業などと関連付け」:

例) 過疎化する地域の居住環境と人々の生活の変容，都市の発展と商業地域の形成など，人々の生活や産業の動向などと関連付けて地域的特色を追究すること

「過疎・過密問題の解決が地域の課題になっていることなどについて考える」:

・地域の地理的事象の形成や特色を理解するためには，過疎・過密地域の抱える問題を具体的にとらえさせ，これを基にして過疎・過密問題の解決が地域の課題となっていることなどを踏まえて考察することが必要である

→高地理B(2)ウ
・人口，都市・村落

→高政治・経済(3)ア
・現代日本の政治や経済の諸課題

◎地域的特色をとらえさせる**学習の手立ての例****<中部地方>**

- ・人口分布図を示し，県庁所在地や太平洋岸，日本海岸に人口が集中し，山間部を中心に過疎地域が分布していることを捉えさせ「中部地方の人口の分布と人々の生活や産業の変化について追究しよう」という課題を設定する
- ・人口が集中している都市，過疎化が起きている地域を，それぞれいくつか取り上げ，人口の変化とともに人々の生活や産業，交通網の変化における共通点を見つけて，そのつながりを考察する
- ・人口が集中している都市，過疎化が起きている地域を，それぞれ一つずつ取り上げ，過密，過疎化に伴う課題と，その改善に対する取組を調べる
- ・過密，過疎化に対するよりよい取組について自分の考えをまとめる

<中国・四国地方>

- ・人口の分布図と写真によって，瀬戸内の平野部に人口が集中し，山間部に過疎地域があることを捉えさせ，「中国・四国地方において人口が集中している地域と人口が少ない地域の違いを追究しよう」という課題を設定する
- ・人口が集中している地域において，気候との関連，工業（瀬戸内）や交通網の発達との関連を考察するとともに，それに伴って起こる問題点（住宅難・ゴミ・公害等）について考える
- ・人口が少ない地域において，人口と気候，産業，交通網との関連と，人口が少ないことから生じる課題（高齢化・バス路線の廃止，学校や病院等の公共機関の閉鎖等）について考える
- ・人口が集中している地域と過疎地域の課題を改善するための取組を調べるとともに，解決するための手立てを考え発表する

(カ) 生活・文化を中核とした考察

地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある事象を中核として、それを自然環境や歴史的背景、他地域との交流などと関連付け、近年の都市化や国際化によって地域の伝統的な生活・文化が変容していることなどについて考える。

小3,4 社会(5)イ →

・地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事

小3,4 社会(6)ウ

(内容の取扱い) →
・…自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域

中地理(1)イ →

・世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる

主な学習内容

「地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある事象を中核として」:

例) 伝統的な町並みの保存や伝統行事の継承、伝統的な地場産業などの地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある地理的事象に着目し、それを中核として地域的特色をとらえさせること

「それを自然環境や歴史的背景、他地域との交流などと関連付け」:

・伝統的な生活・文化に関する諸事象を成立させている諸条件やその諸事象の変容を、自然環境や歴史的背景、他地域との交流などと関連付けて追究すること

「近年の都市化や国際化によって地域の伝統的な生活・文化が変容していることなどについて考える」:

・地域の地理的事象の形成や特色を理解するためには、交通・通信が発達し、都市化や国際化、情報化が進展して地域間の交流が活発化する中で、各地域の人々の生活は同質化が進み、伝統的な生活・文化が変容している一方、地域の伝統や文化を見直し、それを守り育てる活動も盛んになってきていることなどを踏まえて考察することが必要である

→高地理B(2)エ
・生活文化、民族・宗教

→高現代社会(2)ア
・青年期と自己の形成

→高倫理(2)イ
・国際社会に生きる日本人としての自覚

◎地域的特色をとらえさせる

学習の手立ての例

<東北地方>

- ・東北地方における郷土芸能の写真や分布図等から、東北地方に郷土芸能が数多く存在することを捉え、「なぜ東北地方では、郷土芸能が盛んなのだろうか」という課題を設定する
- ・既習事項から、自然や産業と関連付けながら予想を立てて追究することから、自然環境や産業、歴史的背景等との関連を考える
- ・現在の郷土芸能と観光とのつながりについて、伝統文化を見直し、守り育てる活動と関連付けて考察する
- ・郷土芸能における指導者や後継者の課題をつかみ、今後の郷土芸能の在り方についてレポートにまとめる

<中部地方>

- ・中部地方における伝統的工芸品や郷土芸能、祭りについて、県別に調べてまとめる
- ・「伝統的工芸品や郷土芸能、祭りがどのように生まれ、どのように受け継がれてきたのだろうか」という課題を設定し、都道府県ごとに伝統工芸品や郷土芸能、祭りを一つ取り上げ、その由来や受け継いできた取組を調べ、自然環境や産業、歴史的背景等との関連を考察する
- ・伝統的工芸品や郷土芸能、祭りを守るための取組を調べ、その背景や課題、解決方法について考察する

(キ) 他地域との結び付きを中核とした考察

地域の交通・通信網に関する特色ある事象を中核として、それを物資や人々の移動の特色や変化などに関連付け、世界や日本の他の地域との結び付きの影響を受けながら地域は変容していることなどについて考える。

中地理(2)イ →

・世界と比べた日本の地域的特色

(I) 地域間の結び付き

小5社会(2)ウ →

・…生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き

小5社会(3)ウ →

・…工業生産を支える貿易や運輸などの働き

小5社会(4) →

・我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、…情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする

主な学習内容**「地域の交通・通信網に関する特色ある事象を中核として」:**

例) 高速道路や新幹線などの高速交通網の整備と他地域との結び付きの変化、インターネットの普及など通信網の発達、情報化に伴う都市の変化など、地域の交通・通信網に関する特色ある地理的事象に着目し、それを中核として地域的特色をとらえさせること

「それを物資や人々の移動の特色や変化などに関連付け」:

例) 生産地と消費地間の物資の移動、観光地の成立と観光客の移動といった物資や人々の移動の特色、鉄道の開通に伴う通勤圏の変化などの諸事象と関連付けて追究すること

「世界や日本の他の地域との結び付きの影響を受けながら地域は変容していることなどについて考える」:

- ・地域の地理的事象の形成や特色を理解するためには、
- ・他地域との結び付きの関係には、相互依存関係や競合関係など様々な関係があり
- ・それらの関係は社会の変化などに伴い変化していくことや、世界や日本の他の地域との結び付きの影響を受けながら地域は変容していることなどを踏まえて考察することが必要である

◎地域的特色をとらえさせる**学習の手立ての例****<関東地方>**

- ・関東地方における交通網の変遷の地図等から、交通網が発達してきた様子を捉え、「交通の整備によって関東地方は、どのように変化したのだろうか」という課題を設定する
- ・新幹線の上りの本数、昼夜人口、北関東工業地域の出荷額、テーマパークの入場人数等の変化と交通網の整備とを関連付けて考察し、交通網の整備が、農業や工業の輸送範囲の拡大や労働者の移動、観光客の増加等に影響を与えていること等を理解する
- ・交通の整備によって、関東地方がどのように変化したかを、自分の言葉でまとめる

<中部地方>

- ・中部地方の交通網(道路、鉄道、空港、港)とその変化を地図等から捉え、「交通網の整備が、中部地方の発展にどのように結び付いているだろうか」という課題を設定する
- ・交通網の変化と都市における人口の変遷、都市の広がり、中京工業地帯、東海工業地域で多く生産されているもの、港や空港から輸送されているものや輸送先とその変化について調べ、交通網の整備と関連付けて考察する
- ・交通網の整備が、中部地方の発展にどのように結び付いているのかを、白地図等を用いてまとめ、根拠を基に発表する

→高地理A(1)ア

・地球儀や地図からとらえる現代世界

(2) 日本の様々な地域

エ 身近な地域の調査

身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養うとともに、市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。

(内容の取扱い)

エ エについては、学校所在地の事情を踏まえて観察や調査を指導計画に位置付け実施すること。その際、縮尺の大きな地図や統計その他の資料に親しませ、それらの活用の技能を高めるようにすること。また、観察や調査の結果をまとめる際には、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換をしたりするなどの学習活動を充実させること。なお、学習の効果を高めることができる場合には、内容の(2)のうちの中の学校所在地を含む地域の学習と結び付けて扱ってもよいこと。

主な学習内容

小3,4 社会(1) →

・自分たちの住んでいる身近な地域や市(町)について、次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする

小3,4 社会(1)ア →

・身近な地域や市(町)の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物など

中地理(1)エ →

・世界の諸地域に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、様々な地域又は国の地域的特色をとらえる適切な主題を設けて追究し、世界の地理的認識を深めさせるとともに、世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせる

「身近な地域における諸事象を取り上げ」:

- ・生徒が直接的に調査できる地理的事象を取り上げること
- * 生徒の日常の生活圏や行動圏を踏まえて設定した地域にみられる事象,あるいは5万分の1よりも縮尺の大きな地図で読み取れる事象
- * 学習対象としての「身近な地域」は学区域を基に、生徒の日常の生活圏や行動圏を考慮して適切に設定することが大切である
 - * この項目における学習対象地域は必ずしも行政区の市町村を意味しているわけではなく、実際には市町村より小さな学区域を基にした地域であったり、複数の市町村にわたって設定したりする場合が考えられる

「観察や調査などの活動を行い」:

- ・観察や調査: 野外での観察や地域調査
- * 学校所在地の事情を踏まえて観察や調査を指導計画に位置付けて実施する
 - ・それぞれの地域の事情を踏まえた観察や調査を工夫する
 - ・地域の人々の協力を得るなど事前の準備が必要になってくることなどから、年間計画にしっかりと位置付けて実施する
 - ・野外での観察や調査の実施が困難な場合、地図、画像、統計などを基に地理的事象を読み取り、調べ、追究する学習を行う

「生徒が生活している土地に対する理解と関心を深め」:

- ・身近な地域は生徒が生活舞台にしている所であり、そのため、小学校の学習成果を踏まえるとともに中学生の発達段階を考慮して、生徒にとって新しい視点から地域の課題を考える工夫が必要である
- ・身近な地域に対する理解と関心を、新しい側面をとらえさせる学習を通して深め、身近な地域の発展に努力しようとする態度を育てるようにすることが大切である

◎地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養う:

- ・社会参画の視点を重視して、この身近な地域の調査の学習を進める
- ・「地域の課題」を見いだすに当たっては、位置や空間的な広がりとかかわり度とらえる地理的事象に関する地域の課題を扱い、地方財政などの公民的分野の学習内容に関する地域の課題とは区別して扱う

◎市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法:

- ・地域的特色をとらえるとともに、地域の課題を見だし、考察するための視点や方法
- ・視点: 一般的に地域的特色をとらえる地域の環境条件、他地域との結び付き、人々の営み及びそれらの相互関係を基本とし、「市町村規模」という直接経験地域であることを踏まえ、その地域の地域的特色が生徒にとってとらえやすく、地域の課題が明らかになるように設定する必要がある
- ・方法: 野外での観察や調査が中心

→高地理A(2)ウ
・生活圏の地理的な諸課題と地域調査

→高地理B(1)イ
・地図の活用と地域調査

→高地理B(3)ウ
・現代世界と日本

◎地理的なまとめ方や発表の方法：

- ・観察や地域調査の結果を、
 - ・地域の課題と関連付けてまとめること
 - ・地図化するなどの工夫をして表現し、発表すること
 の二つを意味している

- *観察や調査結果をまとめたり発表したりする際には、
 - ・結果を根拠に合理的な解釈になるよう意見交換しながら、多面的・多角的に追究したことが分かるようなまとめ方や表現の方法を工夫することが大切である
 - ・発表や論述する場合において、調査結果から読み取れた事実なのか、それに基づいた自分の解釈なのかが明確に区別できるように表現する必要がある

◇社会参画の視点を取り入れた探究型学習

- ・既習知識、概念や技能を生かすとともに、地域の課題を見だし考察するなどの社会参画の視点を取り入れた探究型学習を地理的分野の学習のまとめとして行う
 〈身近な地域の調査の進め方の例〉
 - ①取り上げる地理的事象を決める
 - ②地理的事象をとらえる調査項目を決め、野外での観察や調査を行う
 - ③とらえた地理的事象について分布図等に表す
 - ④傾向性や規則性を見だし、地形図や関係する主題図と見比べてみる
 - ⑤地理的事象を成り立たせている要因を調べ、関連を調査する
 - ⑥地域的特色としてまとめ、地域の課題や将来像について考察し意見交換する
 - ⑦地図等に分かりやすくまとめ、調査結果を発表する

◇縮尺の大きな地図や統計その他の資料の活用

- ・縮尺の大きな地図：5万分の1よりも縮尺の大きな地図
 例)・それらの地図をもって現地に行き、地図と現地との対応関係を学んだり、地図から関心のある地理的事象を発見したり、地図から地域的特色をとらえ、地域の課題を見だし、考察したりするなどの活動を通して読図に関する技能を高める
 - ・観察や調査の活動を通して明らかになったことを地図上に描くといった作図に関する技能を高めたりする
- ・統計その他の資料：衛星画像、統計、文書資料、映像資料、現物資料など
 - ・諸資料の読み取りや解釈などとともに、統計のグラフ化や地図化などの作業を通して地域の課題を見だし、考察するかたちで、活用の技能を高める

- *学習の効果を高めることができる場合には、内容の(2)のウの中の学校所在地を含む地域の学習と結び付けて扱ってもよい

学習の手立ての例

<テーマの決定>

- ・ 小学校での既習事項を活用したり、身近な市や町の地形図や航空写真等（新しいものと古いものを用意することで変化を読み取ることもできる）を読み取ったりして、身近な地域の情報を収集する
- ・ 土地利用の様子や人や物の状況等の視点を決めて、観察調査を行い、身近な地域の情報を収集する（学校所在地の事情等を踏まえて、登下校を利用して観察調査を行うことも考えられる）
- ・ 集めた情報をカードに書き出して分類し、疑問点を出し合うなどして追究テーマを決定する
- ・ 集めた情報を基に、日本の諸地域での考察の仕方等を活用し、テーマを決定する（自然環境、歴史、人口、産業、生活・文化、他の地域との結び付き等）

<調査>

- ・ 調査する目的、内容から、調査の計画を立てる
- ・ 生徒の実態に応じて、調べる内容、まとめる際の項目等をあらかじめ吟味しておく
- ・ 市町の役所や図書館等から、市町の教育委員会等が発行している地域の副読本、地域の観光パンフレット、地形図、統計資料、文献資料等、様々な資料を収集する
- ・ 調査結果をまとめるために、資料を吟味し、必要な資料を精選する

<まとめ、発表>

- ・ 調査した結果を整理してまとめて（レポート、ホームページの作成等）発表する
- ・ 集めた資料や情報を分かりやすく表現できるように、文章だけでなく図や地図等を活用したり、作成したりしてまとめる
- ・ 生徒の実態に応じて、レポートの作成の仕方、グラフや分布図の作り方を習得させ、まとめに活用する
- ・ 文章にする際には、文献に書かれている文章をそのまま記述せず、自分の言葉に直して表現する
- ・ グループで調査研究の発表を行い、より分かりやすいまとめや発表になるよう意見交換をする
- ・ 電子黒板や実物投影機等を活用して、根拠となる資料等を学級全体で共有しながら発表する
- ・ 発表を聞くための視点を示したワークシート等を活用し、目的意識を持って聞く
- ・ 発表の内容から地域の課題や将来像について考察し、意見交換する